

令和7年度 園経営全体計画

佐倉市立佐倉幼稚園

基本理念	幼児期は人格形成の基盤となる重要な時期であることを踏まえ、幼児理解と幼児との信頼関係を基に、家庭と連携しながら、健やかな成長を図れるよう、よりよい環境を創造する。				
教育目標	よく遊び、よく学び、やさしい心 と はじける笑顔				
目指す 子どもの姿	○感じる子ども	○よく遊ぶ子ども	○考える子ども	○やさしい子ども	
	・感じ心を動かして味わう ・感じたことや思ったことを表現する	・興味や関心をもちやってみようとする	・自分で考え、遊びや生活を進めようとする。 ・なぜだろうと考えたり試したりしてやり遂げようとする	・身近な人に関わり、親しみや思いやりの気持ちを持つ ・思いを伝え合い、相手の気持ちに気づく	
行事の ねらい	園生活の連続性の中で、幼児に必要なものを行事として行う ①子どもの発達や成長を知らせる。 ②親子の触れ合いや保護者同士の関わりを促す。 ③伝統行事を知らせる。 ④健康と安全を守る。 ⑤保育を厚くし幼児の経験を広げ深める。				
特 に 配 慮 す る 事 項					
1 一人一人の発達や主体性を大切にする保育	2 発達の連続性に配慮した保育	3 健康と安全を守る保育	4 自然との関わり	5 家庭との連携	6 食育の推進
・一人一人の発達の状況や、興味、関心、思いなどを十分に踏まえた応答的な環境作りを行う。 ・幼児が主体的に環境に関わり、対話を重ねながら、園生活を楽しみ、充実感を味わえるようにする。 ・少人数である環境のよい点を生かし、留意点を意識して保育にあたる。	・入園前や年少時の育ちを踏まえ、学年や期に合わせた環境を構成し、活動のねらいや目的を明確にして保育にあたる。	・健康な心と体の発達を促すよう、様々な動きができる環境を用意し、外遊びの時間を十分に取る。 ・安全な遊び方や災害・緊急時の身の守り方、交通安全の約束などを知らせ、自ら考えて行動できるようにする。	・幼児の発見や気づき、興味・関心など、五感を働かせ心動かす体験ができるよう、身近な自然と触れ合える環境作りに努める。	・保育内容を家庭に発信する。 ・家庭との連携を密にして、安心して通えるようにし、保護者の信頼を得られるようにする。 ・保護者同士がつながることのできる機会を大切にする。 ・アンケート結果を園経営に生かす。	・野菜の栽培、収穫、クッキング、会食、給食などを通じて、食に関心を持ち、「いのち」をいただくことや、関わる人々に感謝できるようにする。
			7 地域との交流・連携と開かれた園づくり	8 インクルーシブな保育	9 異年齢との関わり
			・城址公園、菖蒲田、旧堀田邸庭園、武家屋敷や夢咲くら館等、地域の自然や歴史・文化に触れる体験をする。 ・近隣の保育園、小学校、中学校、高校等との交流をもち、地域の人々との関わりを広げる。 ・園だよりの地域回覧やHPで保育内容を発信する。	・一人一人の教育ニーズに応じた教育をする。様々な友達や人々との触れ合いの中で、互いのことを知り、認め合う心を育む。 ・家庭や関係機関との連携を図り、個々の発達に合わせた支援や指導の方法を、全職員で共通理解して実践する。	・未就園児、保育園児との関わりの中で、年下の友達への思いやりなどを自然に感じられるよう配慮する。
			10 小学校への円滑な接続	11 子育て支援(保護者・地域子育て家庭)	12 研修・研究
			・協同的活動を多く取り入れたり、対話を大切にしたりしながら、互いに認め合い、共に活動する楽しさを味わえるようにする。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で、幼児の体験や育ちの振り返りを行い、指導や接続(引継ぎ)に生かす。 ・小学校見学、職員研修等により、幼小の交流や連携を推進する。	・預かり保育(職員間の連携を基に安心して過ごせる家庭的な環境作りと、こども子育て支援新制度移行施設として実施回数確保の工夫を行う。 ・園開放 親子で楽しく遊び交流できる場と共に、在園児と触れ合える場や活動、子育て相談や情報等の提供を行う。	・研修を充実させることにより、職員の資質向上を図り、教育の質を高めるとともに、園の課題改善に取り組む。 ・園内研究 「人間関係」人と関わる中で自分の力を発揮し、伸び伸びと遊べる幼児を目指して」(2年目)
			13 職員体制	14 評価方法	
			・職員間の連絡を丁寧に行い、連携を図る。 ・効率的な事務や会議の工夫をする。 ・事務内容や進捗状況、課題などを共有する。	・園評価に向けたアンケート (保護者) ・園評価自己評価 (職員) ・関係者評価 (学校評議員) ・人事評価【目標業績・能力】 (職員) 結果を園経営に生かす。	